

VIEW

チョークチェックのための「チョークチェック」?!

煩雑なチョークチェック! 「対策のための対策」で職場は混乱!!

会社は、「給油栓・磁気栓締結作業手順変更に伴いチョークチェック表記方法を見直す」として、3月21日付の『作業指示』を出しています。チョークチェックの箇所が増え、手順もわざわざ工具ロッカーの黒板まで行き来が必要になるなどとても煩雑になります。会社は「変更」する目的を「確実な後確認の実施のため」としていますが、これでは「何処にどのタイミングでチョークを入れるのか」「チェックが抜けて管理者に指摘されるのではないかなどと気になり、油量やシールワッシャー、緊縛の有無よりもチョークチェックの方が気になってしまいます。

また、『作業指示』では「軸箱体のレ点」（給油後の最終確認）を入れる前に「側カウルに書いた記事」（作業終了）へのレ点を入れるなどこれまでと逆で、チェック方法の趣旨がおかしくなる部分もあります。また、チョークが付きにくい針金にチョークチェックを入れさせたり、「対象箇所」を軸箱・歯車箱としています。歯車箱についての具体的な説明が無いなど多くの問題点があります。

管理者とのやり取りです。

社 員：側カウルにレ点を入れる順番は軸箱体に入れてからではないですか。

管理者：それは、給油後のレ点であるからそれでいい。軸箱のレ点は最終であって、側カウルのレ点は給油後のレ点である。

社 員：今までは、側カウルには最後に入れていましたよ。

管理者：順番はこれでいい。

チョークチェックには、意味があります。机上で考えて、あれもこれもチョークだらけにして「対策を講じた」とするのは管理者の自己満足です。

管理者は、会社の上層部に向けて「しっかりと対策をしています」と言いたいのですが、煩雑な対策は職場を混乱させミスを誘発する要因にしかありません。

現場では、何でこんな煩雑な対策になるのか？もっと簡単で確実なチェック方法がある！机上の対策を押しつけるのはおかしい！という声があがっています。

社員のみなさん！作業をするのは私たちです。もう一度『作業指示』（第23—20）を見て、おかしい点ははっきり言っていこうではありませんか。